



福島林業

No. **712**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



12 2023



監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 木の温もり



「外の物」のこと

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
理事長 菊池 壯 藏

最近、前職で担当していた「経済学の入門講義」で必ず話題として取り上げた「豊作貧乏」について、角度を変えて反芻する機会が多くなりました。この場合まず「豊作」について考えてみます。もともと秋口に全国で行われている「秋祭り」というのは「収穫祭」を起源としていたと思われませんが、「五穀豊穡・子孫繁栄」こそ農耕民にとって永遠普遍的の祈りでした。生命を繋ぐための糧（かて）を無事確保出来たことへの「感謝祭」でもあったわけですね。生き物にとって、食べ物の確保は死活問題なのですから、「豊作」を率直に喜べない「貧乏」なんて人間の社会はどうなっているのだろう。と、森のクマなら思うでしょうね。

町を挙げての大綱引き行事を始めとして、「来年の豊作」を占い・願う神事は、様々な形で全国のあちらこちらにある様です。この場合、一方が勝つと豊作ですが反対の場合は占いとしては「不作」・「凶事」のはずです。が、今日では「米の値段が上がる」と称しているようです。「増収」です。しかしそれは、まさしく「商品・貨幣経済の世界」ならではの出来事に他なりません。何を今更！そんなのは「常識」でしょうが！との声が上がるとの承知で続けますと、こうなります。いったい生き物として生命を維持するための「幸」（さち・元々は食物の意）は、不作に備える蓄え分以上の過剰生産（自然からの略奪）は謹むのが「常識」だったはずですよ。

教材に『キング・コーン』という映画作品（二〇〇七）を使ったことがありました。この映画で米国の農業政策の変遷（需給調整から補助金による食糧世界戦略へ）を知る事になりましたが、合衆国中西部のコーン・ベルト地帯でバイオエタノール用の（食用不可のデンプン質だけに特化・品種改良された）トウモロコシ栽培をやっている農家が出てきました。彼らには、食糧生産者の意識はなく、単なる売渡価格目当ての「モノの生産」を行っているに過ぎないと語ります。

ここには、対象物のどの側面を見てそれを認識枠の中に据えるのかという問題が潜んでいるように感じております。J. ユクスキユル『生物から見た世界』（岩波文庫）の終りの方にカシワの木が登場します。客体としてのカシワはそれに関わる他者（杣人から虫に至るまでの各主体）によって様々な「意味」を持たされています。この本は数年前に入手してから、折に触れて繰り返し読んではいりますが、読み直すたびに、いつも難しく悩んでいるところですよ。

《も く じ》

「外の物」のこと

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団 理事長 菊池 壯 藏	1
第48回福島県林業祭を開催しました	2
令和5年度福島県林業コンクール	3
第74回福島県学校関係緑化コンクール	3
第26回福島県森林組合連合会良質材展示会	4
第2回ふくしま伐木チャンピオンシップ2023を終えて	4
令和5年度福島県きのこ品評会を開催	5

第20回ふくしま森林・林業写真コンクール	5
第8回福島県きのこ料理コンクールを開催	6
林業アカデミーふくしま研修日誌⑦	7
普及指導員通信	8
森連だより	9
林研グループだより	10
木の文化を育む⑦	11
木材市況・ふくしま東西南北	12
はなしのひろば・お知らせコーナー	13

第48回

福島県林業祭を開催しました

福島県林業祭実行委員会

福島県林業祭は、恵み豊かな森林を守り、育て、木材などを生産する「林業」の魅力と重要性を県民の皆様幅広くPRするお祭りとして、昭和五十一年から開催しています。

四八回目となる今年も、十月二一日（土）に林業研究センターで開催しました。

今年も、イベント内容によって会場内を八つのエリアに分け、来場者の皆様によりわかりやすく林業の魅力を感じていただけるよう、見学・体験型イベントを充実させる等の工夫を行いました。

昨年までは、新型コロナウイルス等の影響により、通常どおりの開催ができませんでした。従来のオープンな形で開催するのは実に五年ぶりとなったことから、この日を楽しみにされていた方々の声が多く寄せられたほか、天候に恵まれたこともあり、約一、二〇〇人の方々に御来場いただきました。

今年新たに木材加工棟前に設けた「森のクラフトエリア」では、木工クラフト品の展示やワークショップ、農産物加工品やコーヒーなどの飲食物の販売が行われ、これまでの林業祭と違った雰囲気のエリアとなり、多くの来場者で賑わいました。

また、北門からの通路脇では、「森の体験エリア」として、ツリークライミング®体験が五年ぶりに行われました。

「木の匠エリア」では、木工体験教室や草木染め、森林経営ボードゲームのほか、栗田広行氏によるチェーンソーアートショーでは、丸太から生み出される迫力ある「龍」の文字に、多

くの観客が惹きつけられていました。

「森林の魅力発見エリア」では、緑の相談室や苔玉体験教室、ペレットストーブ展示、漆器販売といった森林レクリエーションや森林文化に関するブースと、緑の募金や森林保険などのPRが行われました。

「きのこまつりエリア」では、県政PRコーナーのほか、きのこ品評会において県内の生産者から出品された選りすぐりのきのこが販売され、多くの方に購入していただきました。

「林業アカデミーふくしま」の研修施設屋外の「そまびと体験エリア」では、高性能林業機械の試乗、施設内の

「未来の柚人育成エリア」では、施設見学、アカデミー相談会やハーベスタシミュレーターの操作体験コーナーのほか、研修生自らが企画したストラックアウトが行われ、来場者から「林業の良さを知ることができた」という声がありました。

また、今回二回目となる、「第二回ふくしま伐木チャンピオンシップ20二三」では、県内の林業従事者やアカデミー研修生が出場し、簡易伐倒や枝払いを通じて、作業の安全性、正確性、スピードを競うとともにその格好良さをアピールしました。

「メインステージエリア」で計三回行われた「模擬上棟式」では、一般社団法人福島県建築大工業協会様が建築した木造躯体からお菓子や餅がまかれ、子供から大人まで多くの来場者の方で盛り上がりました。

「未来の柚人育成エリア」では、チェーンソーアートショーで製作された作品をはじめ、県内各地の魅力あふれる逸品が、次々と元気なかけ声で競り落とされました。

スタンプラリー「森林を遊びつくせ！」では、会場内の各エリアに設置されたポイントでスタンプを集め、抽選でカッティングボードや漆器、オリジナルグッズなど様々な景品がプレゼントされるとあって、多くの方々に楽しんでいただけました。

今年も郡山市を始め、出展者や出演者の皆様など多くの方々の御協力により、無事に林業祭を開催することができ、この場をお借りして深く御礼を申し上げます。今後も皆様方とともに工夫を重ねながら、森林・林業・木材産業の魅力を発信するため、林業祭をさらに盛り上げてまいりたいと考えていますので、引き続き御協力をよろしくお願いいたします。



森のクラフトエリア



森の体験エリア(ツリークライミング)



木の匠エリア(チェーンソーアートショー)



森林の魅力発見エリア



きのこまつりエリア



そまびと体験エリア



未来の柚人育成エリア



第2回ふくしま伐木チャンピオンシップ2023



模擬上棟式



森のオークション

令和五年度

福島県林業コンクール

福島県森林計画課

福島県林業コンクールは、林業技術の向上と林業経営の改善を図り、本県林業の発展を推進することを目的として開催しています。

今年度は、七件の応募があり、森林計画課、森林整備課職員等による現地審査の後、九月八日に森林・林業関係団体等の代表者からなる審査委員会を開催し、各賞の受賞者を決定しました。

今年度は、山林苗畑において、幼苗の播種床の粗密度管理と生長の均一化を図るための創意工夫や、森林育成における、間伐の必要性を理解



山林苗畑部門県知事賞の苗畑
(佐藤 孫一)

した計画的な間伐実施の努力が見受けられる審査結果となりました。今後も林業経営者の方々の林業技術向上がより一層図れるよう、引き続き開催してまいります。

部門別表彰者

一 山林苗畑部門

福島県知事賞 佐藤 孫一
福島県農林種苗農業協同組合代表理事組合長賞
株式会社野尻緑産 代表取締役

野尻 榮一

二 森林育成(間伐)部門

福島県知事賞 鈴木 俊輔
福島県木材協同組合連合会長賞
福島県森林組合連合会

代表理事会長賞 清信 眞一
堀越牧野利用農業協同組合 代表

鈴木 均

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会長賞 田子 義範

農林中央金庫福島支店長賞
長坂区 代表 黒澤 孝

第七四回

福島県学校関係緑化コンクール

福島県森林計画課

当コンクールは、児童・生徒の緑化活動及び学校における環境教育の一層の推進を図るため、福島県及び福島県教育委員会の共催により毎年開催しています。

今年度は七件(学校林等活動の部二件、学校環境緑化の部五件)の応募があり、県審査委員会の審査により、表彰者を決定しました。

最優秀賞(県知事賞)は、両部門ともに会津若松市立川南小学校が受賞しました。

- 1 学校林等活動の部
- ・会津若松市立川南小学校



学校林での活動の様子
(会津若松市立川南小学校)

学校裏のクヌギ林と敷地内の樹木を使用して人里の生態系を学ぶとともに、校外ではNPO法人が管理する森林での作業を通して環境保全や産業資源としての森林を体験的に学習しています。

2 学校環境緑化の部

・会津若松市立川南小学校

児童が自らで考え、各学年ごとの花壇で花を栽培しました。また、校内に設置してある樹木プレートを頼りに、樹木オリエンテーリングを行うなど、日常的に樹木に親しむ活動に取り組んでいます。



学校環境整備の様子
(会津若松市立川南小学校)

第二六回

福島県森林組合連合会良質材展示会

福島県森林組合連合会

当会は、第二六回福島県森林組合連合会良質材展示会を、去る十月十七日(火)、いわき木材流通センターにおいて開催いたしました。

この行事は、関東森林管理局、福島県、福島県木材協同組合連合会からのご後援をいただき、毎年当センターの記念市と同時に開催しております。

生産技術の改善向上や木材品質の向上、福島県産材の優秀性を広く紹介すること、また木材需給の安定に寄与することを目的に開催回数を重ねてまいりました。

審査は十月四日(水)、当センターにおいて福島県、福島県木材協同組合連合会、買方者代表の方々に協力いただき、県森連を含め計五名が行いました。

「審査の流れ」

第一次審査 材の数量規定、造材技術や商品価値を満たしているかなどを審査します。

第二次審査 第一次審査で選出された材について、審査員が表1の基準により材種及び材種区分ごとに審査し、各賞を決定します。

今年度は出品点数二八点から特に優秀なもの七点を選定しました。入賞者については、表2「受賞者名簿」の通りです。ご出展いただきありがとうございました。

また、これまで良質材展示会の開催にあたりましては、出荷者、買方者の皆様のご協力並びに関



林野庁長官賞のヒノキ通し柱 (いわき市 緑川農林 緑川平隆)

係機関のご指導ご協力があったこと、この場をお借りし改めて感謝申し上げます。

当センターは、流通施設としてSGEC/COC認証を取得するなど県内森林組合系統の唯一の木材市場として、買方者の皆様に福島県産材を安心してご求めいただけるよう、供給体制の強化に全力で努めてまいりますので、今後も当センターをご利用下さいますようお願いいたします。

(表1) 審査基準

審査項目	審査対象
育林技術	節の有無・大小
	年輪幅
	材の曲がり
	材のまる身・偏心
造材技術	材の光沢・色彩
	枝はらい
	材の切断面
延寸	
総合	商品価値・市場性

(表2) 受賞者名簿

賞	名	受賞者名	樹種	長級(m)	径級(cm)
林野庁長官賞	受賞者名	緑川農林 緑川平隆	ヒノキ	6.00	18-20
関東森林管理局賞	いわき市森林組合 代表理事 田子英司	田村森林組合	スギ	3.00	18-20
福島県知事賞	田村森林組合		スギ	4.00	44-52
福島県木材協同組合連合会長賞	ふくしま中央森林組合		スギ	4.00	40-44
福島県木材協同組合連合会長賞	株式会社サンライフ 代表取締役 水野喜文		スギ	4.00	40-44
福島県森林組合連合会長賞	石嶋商事 石嶋美智男		スギ	3.65	46
福島県森林組合連合会長賞	木葉山林業 佐藤政義		スギ	4.00	52

第二回

ふくしま伐木チャンピオンシップ2023を終えて

林業・木材製造業労働災害防止協会 福島県支部

本誌九月号でお知らせしました、第二回ふくしま伐木チャンピオンシップ2023を、十月二日に福島県林業研究センターで開催された「福島県林業祭」会場にて実施いたしました(当競技会開催趣旨及び歴史については、林業福島九月号をご覧ください)。

第二回となる今回は、JLCLルール基準の五種目(伐倒、ソーチェーン脱着、丸太合せ輪切り、接地丸太輪切り、枝払い)を実施するフルクラスに、県外からの選手を含め七名、三種目(丸太合せ輪切り、接地丸太輪切り、枝払い)を実施するショートクラスには、林業アカデミーふくしま長期研修生を含む十四名の選手が参加し、いつもの山林作業とは少し勝手が違う「競技」としての伐木・造材技術を競い合っていました。



第2回 FLC参加者の皆さん



丸太合せ輪切り競技

大会の上位入賞者は次のとおりです。

○フルクラス

優勝 島山直樹 (株式会社山下組・岩手県)

準優勝 高橋真也 (合同会社T FOREST・相双)

第3位 星野智哉 (桐生広域森林組合・群馬県)

○ショートクラス

優勝 菊池恒児 (株式会社秋山林業・県南)

準優勝 武藤 唯 (林業アカデミーふくしま長期研修生・県中)

第3位 蛭田 満 (いわき市森林組合・いわき)

今回思うような成績とならなかった皆さん、次回のリベンジを期待しています(お疲れ様でした)。

当支部は、今後も当競技会を通して、林業の向上並びに林業の仕事を広げ、一般に広め、林業の社会的地位向上を図りながら、安全作業への高い意識と技術力を持つ人材の育成と林業労働災害の撲滅に向けた啓発に取り組んで参りますので、皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

審査状況



農林水産大臣賞

受賞者一覧

賞名	受賞者名	市町村	部門
農林水産大臣賞	円谷 亮一	泉崎村	生しいたけの部 菌床栽培部門
林野庁長官賞	箭内 幸一	田村市	生しいたけの部 原木栽培部門
	福田 正三	石川町	乾しいたけの部
	有限会社鈴木農園 代表取締役 鈴木 清	郡山市	なめこ・ひらたけの部
福島県知事賞	上石 広昭	郡山市	生しいたけの部 原木栽培部門
	大野 宏樹	天栄村	生しいたけの部 菌床栽培部門
	鈴木 吉一	磐梯町	乾しいたけの部
福島民報社 代表取締役社長賞	有限会社加茂農産 代表取締役 加茂 直雅	いわき市	なめこ・ひらたけの部
福島民友新聞社 代表取締役社長賞	渡邊富士雄	本宮市	生しいたけの部 原木栽培部門
全国椎茸商業協同組合連合会 理事長賞	芳賀 大輔	中島村	生しいたけの部 菌床栽培部門
日本特用林産振興会会長賞	山田としい	福島市	乾しいたけの部
公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会 会長賞	桐の里産業株式会社 代表取締役 小堀庄太郎	三島町	なめこ・ひらたけの部
	横田 富夫	郡山市	生しいたけの部 原木栽培部門
	佐治 卓郎	郡山市	生しいたけの部 菌床栽培部門
福島県農業協同組合中央会 会長賞	西会津しいたけファーム 土田 杏子	西会津町	乾しいたけの部
全国農業協同組合連合会 福島県本部長賞	三浦 久義	伊達市	なめこ・ひらたけの部
福島県森林組合連合会 代表理事会長賞	尾亦 隼一	矢祭町	生しいたけの部 菌床栽培部門
福島県きのこ振興協議会 会長賞	大橋 茂美	伊達市	生しいたけの部 原木栽培部門
	有限会社逸藤きのこ園 逸藤 雄夫	川内村	生しいたけの部 菌床栽培部門
	山崎 眞平	西会津町	なめこ・ひらたけの部
福島県きのこ振興協議会 会長賞	古川 政善	郡山市	生しいたけの部 原木栽培部門
	富士ソフト企画株式会社 中村 寛基	西会津町	生しいたけの部 菌床栽培部門
	農事組合法人いわき菌床椎茸組合 代表理事 渡部 明雄	いわき市	乾しいたけの部
	有限会社ハッピーファーム 代表取締役 安田 潤一	郡山市	なめこ・ひらたけの部

福島県きのこ品評会を開催

令和五年度福島県きのこ品評会が十月二〇日(金)に県林業研究センターで開催され、総出品数一〇七点の中から、最高賞の農林水産大臣賞には、生しいたけの部菌床栽培部門の円谷亮一氏(泉崎村)が輝きました。春から秋にかけての記録的な高温のなか、傘の大きさと軸の長さの均整がとれたすばらしい出来映えのきのこでした。この品評会では、例年当協会と福島県きのこ振興協議会が、福島県をはじめ関係団体の

後援をいただき、福島県きのこまつりの一環として実施しているものです。翌二二日(土)に林業研究センターで開催された第四八回福島県林業祭において、品評会の出品作品の展示・販売会を行い、大勢の来場者で賑わいました。また、郡山市安積町のホテルバーデンでは表彰式が執り行われ、受賞者の栄誉を讃えました。各賞の受賞者は表のとおりです(敬称略)

(最優秀賞、優秀賞及び特別賞の入賞者)

賞の種類	賞名	入賞者		
		市町村	氏名	題名
最優秀賞	福島県知事	喜多方市	片桐 勝美	出荷待ち・木材資源
優秀賞	公益社団法人 福島県森林・林業・ 緑化協会会長賞	会津若松市	佐山 勝信	製材を待つ丸太達
		福島市	涌井 礼子	木の温もり
		福島市	高橋 勝美	冬が来る前に
特別賞 (一般の部)	一般財団法人 福島県林業会館 理事長賞	福島市	澁谷 謙治	しなる耐震木
特別賞 (学生の部)	公益社団法人 福島県森林・林業・ 緑化協会会長賞	いわき市	飯山 悠大	Wood Chips

入賞作品は当協会のホームページでご覧いただけます。



タイトル通りの男性が今か今かと出荷を待っているシンプルな画面構成のなか、力強さと心理的な要素も加わり材木と空と人が三位一体となりバランスのとれた優れた写真です。空の青さが画面を引き締め広角レンズの特性を使い写し撮った力量はさすがです。

最優秀賞(県知事賞)作品の講評

第20回最優秀賞(県知事賞) 受賞作品



作品名「出荷待ち・木材資源」

この作品は、2024年1月号の表紙に掲載します。

林業コンクール等表彰式において行われ、受賞者と入賞作品を讃えました。入賞作品の展示は、同日開催の第四八回福島県林業祭の会場と、十二月四日(月)から十二月八日(金)まで県庁連絡通路に展示し、写真を通して頑張る林業の姿を広くPRしました。今後は「林業福島」の表紙に適宜掲載してまいります。

第二〇回

ふくしま森林・林業写真コンクール

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

第8回福島県きのこ料理コンクールを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島県きのこ振興協議会

令和五年十一月四日(土)、郡山市安積総合学習センターにおいて「第8回福島県きのこ料理コンクール本審査会」を開催しました。

同コンクールは、食用きのこについての正しい知識とその活用への普及啓発により、きのこ産業の振興を図ることを目的としており、福島県、福島県森林組合連合会、全国農業協同組合連合会福島県本部の後援をいただき開催しました。

応募総数は一五〇点(高校生一〇四点、大学生三三点、専門学校生十一点、一般三点)となり、最優秀賞で



最優秀賞
県知事賞
荒明なな葉さん 県知事賞受賞作品
「ヘルシー ビューティー ポリューミー きのこ巻き巻き福島鍋」



調理審査

ある県知事賞は規定により一点の選出となりました。

当協会が委嘱した五名の審査員により、十月十一日に書類による一次審査を、十一月四日には調理の実技を伴う本審査を行い、七名の方の入賞が決定しました。

全参加者が規定時間となる一時間以内に作品を仕上げました。審査員からは口々に、「今回は甲乙つけがたく配点に苦慮した。」との声が上がりました。作品は味付けのバランスが悪く、味付けがなくて、味付けが沿った味付けになっている。実際の良さや調理台の様子など普段

からどれだけ取り組んでいるか、気持ちを入れてやるうとしていられるかよく伝わってきた。きのこ料理はパターナイズしやすくレパートリーが少なくなくなってしまいがよく工夫されていると高く評価されていました。

また、地元産のきのこを念入りに調べて使用するなど材料選びにおいても工夫が凝らされ、地元色が反映される料理と組み合わせで作られた作品も多くありました。参加者の皆様の日々のきのこ料理への研鑽の賜物と察しますとともにご指導された先生方のご尽力に感謝申し上げます。

入賞者のうち県知事賞を受賞した荒明なな葉さんは、令和六年三月五日に東京都で開催される第三六回きのこ料理コンクール全国大会へ福島県代表として推薦されることとなります。



記念撮影

受賞者一覧

	作 品 名	氏 名	職 業
県知事賞	ヘルシー ビューティー ポリューミー きのこ巻き巻き福島鍋	荒 明 なな葉	福島県立あさか開成高等学校
優 秀 賞	体に優しい!ヘルシー!福島県産きのこまるごと豆腐 ハンバーグ	大 戸 碧 月	郡山女子大学附属高等学校
	福笑い!!!ふくふくしめじで食ペラー油	室 井 つな子	一般
特 別 賞	見てわくわく 食べてわくわく きのかケーキ	三 瓶 莉 奈	郡山女子大学附属高等学校
奨 励 賞	サクジュワ!!きのこをギュッと!!“キノフィユカツ”	薄 井 和香奈	郡山女子大学
	きのこのせせいもち	田母神 美 穂	郡山女子大学短期大学部
	きのこざくざく ふくしま福の汁	眞 島 彩 矢	福島県立あさか開成高等学校

林業アカデミーふくしま研修日誌⑦

福島県林業研究センター

就業前長期研修七ヶ月目の十月の研修では、第二回インターンシップや造林に関わる実習を行ったほか、福島県林業祭にも参加しました。

○十月の研修内容

九日間の「就業体験（インターンシップ）」では、数多くの森林組合や事業体の方にご協力頂きました。研修生は、就職先の決定を間近に控えているため、就職した際に自らに求められていることや、自分の現在のレベルを知る良い機会になりました。

「森林文化」や「薪・木炭生産」では、広葉樹を割って薪にし、一部は伏焼き法で木炭作りをしました。また、その木材を使って自分たちで火をおこして野外キッチンも行いました。

福島県林業祭では、出展組とFLC（ふくしま伐木チャンピオンシップ）競技参加組でそれぞれが取り組むとともに、会場内で林業に触れながら学びを深めました。出店組はチェーンソー実習に出た木の円盤

を的にしたストラックアウトを催し、子どもたちに大人気で午前中のうちに景品が無くなってしまいうほどでした。FLC組は、日頃の練習の成果と自分の現在のレベルでどこまで戦えるのかを知るべく、大会に臨みました。大勢が注目する緊張感の中ではありませんでしたが、他の出場者と引けを取らないほどの活躍だったと思います。

「育苗」の講義では、苗木の出荷時期と水分量の管理や取り扱いを学びました。七月の講義で見学した圃場のヤマザクラやスギなどは、目を見張るほど成長していました。

「造林・更新」の実習は二日間行い、初日に刈払いと地拵え、二日目にヒノキの裸苗とスギのコンテナ苗の植付けを行いました。

「現場管理の基礎」の講義では、提案型集約化施設と森林施業プランナーについて学びました。複数人が所有する山林を一つにまとめて施業をするため、所有者が不明確だと管理が困難になるという課題があり、林業の難しさを実感しました。

○研修生の感想 佐藤貴輝さん

四月に入講して約半年が経過しましたが、未だに発見が絶えません。どの講義も普段学べないことばかりで、同じ講義の中でも新しいことを発見することが多々あります。その中でも今月行った二回目のインターンでは、似たような木は伐倒するが、全く同じ木を伐倒することは二度とないという言葉に感銘を受けました。

残り半年しかありませんが、しっかりと基礎を固めて木からも伐って欲しいと言われるような袖人を目指したいと思います。

○研修生の感想 清水聖矢さん

僕が印象に残っていることは二つあります。

一つ目はインターンシップです。

一回目のインターンシップでは中々社員の方々と会話が出来ず、また伐倒の時に手元に集中してしまい木が倒れ始めていることに気が付かず、怪我はしませんでした。二回目のインターンシップでは伐倒の補助やワイヤー掛け、土場までの運搬などを行いました。そして社長の厳しい指導の元、自分の弱点を見つける事が出来ました。

二つ目はFLCです。初めての観客の前での伐木競技で、自分が狙っていた入賞はできませんでしたが良い経験になりました。

残りのアカデミー生活の中で、まだまだ不慣れなものが沢山あるので就業までに上達出来るよう頑張りたいと思います。



FLC枝払い競技



コンテナ苗の植え付け

森連だより

森林組合職員初任者 研修の開催



十月十二日、福島県林業研究センター研修本館を会場に森林組合職員初任者研修を開催しました。初任者研修はコロナ禍で開催が出来ずいた為、四年ぶりの開催となり県内各地の森林組合より総勢二七名の職員が緊張した面持ちで続々と会場に集まり、開始予定時刻よりかなり早い時間に参加者全員が席に着き、研修前から初任者のフレッシュさを感じるポイントとなりました。

研修前に森林組合綱領の唱和を行った後、「森林組合について」をテーマに当会田子会長が講義を行い、森林所有者の視点からみた森林組合、経営者としての視点からみた森林組合など長年林業に携わってきた自身の立場から初任者に向けた活きたアドバイスに参加者は熱心に耳を傾けていました。

次に「本県の森林・林業の現状と

課題について」をテーマに当会丹治専務から原発事故から現在に至るまでの本県林業の状況、そしてこれから迎える本格的な皆伐再造林に向けた取組などを各事業と絡めた説明を行いました。

お昼休憩をはさみ、午後はグループワークに取り組んでもらうことのみを案内し、内容については告知をしていません。ロールプレイング形式で「森林組合を紹介しよう」と説明を始めると、事務局の拙い説明と相まってザワザワした雰囲気。

今回のロールプレイングは以下のルールで進めました。

- ① 同じグループのメンバーは、某森林組合の同僚で、お互いに働き始めて間もない職員。
- ② ある日、役付き職員及び先輩職員全員が出払っている際、事務所に電話がかかってきた為、同僚のひとりが対応をし、電話を切った後に同僚全員を集めて先程の電話について報告を始めました。
- ③ 電話の内容をまとめると、森林所有者の方から電話があり、「森林組合の管内に森林を所有しており、組合員になろうと考えている。ただ、森林組合について何も知らないでこれから一時間三〇

分後に事務所に行くので説明をお願いしたい。」先方はそう伝えると、上席がいないことを伝える間もなく電話を切ってしまい、運転中なのか折り返し電話をしても繋がらない状況となっています。

④ そのため、所有者の方が森林組合の事務所に到着する一時間三〇分以内に資料を作成し、所有者に向けた説明を行えるよう準備をすることとなりました。

⑤ 説明を受けた所有者、今回は所有者役として講師陣からの質疑も想定し、対応出来るようにすること。



各班、急ピッチで資料作成
90分間の時間制限は緊張感がありました

⑥ 説明方法、資料作成の方式は自由とし、模造紙、パソコンなどは事務局で準備した物品を使用する。

以上の説明をし、実際に九〇分間で各班には資料の作成と発表の準備を進めてもらいました。

資料や発表について大変興味深い内容でしたが、文字数が足りませんので是非とも森林組合の事務所で説明を受け、組合員に加入して頂けると嬉しい限りです。

皆様、お待ちしております！



森林組合についてのプレゼンを各班で実施
プレゼンを熱心に聞く所有者役の講師陣たち

林研グループだより

令和五年度も
元気に活動して
います!!



表彰式 会津里山森林資源育成研究会の星会長

会津里山森林資源育成研究会が北海道・東北ブロックコンクールで高評価
 全国林業研究グループ連絡協議会等が主催する『北海道・東北ブロック「令和五年度林業グループコンクール」』が、令和五年十月三〇日、アップルパレス青森（青森市）で開催され、令和五年一月に福島県が開催した令和四年度林業研究グループ



表彰式終了後の記念撮影



等活動発表会において最優秀賞（県知事賞）を受賞した会津里山森林資源育成研究会（星比呂志代表）が福島県代表として参加し、会津桐の苗木生産と普及を通じた桐森林資源の育成等々への取り組み」と題して発表を行いました。
 桐という伝統的な森林資源に着目し、新しい視点での商品開発や若手

後継者の育成、昨今その重要性に着目されている里山の再生に真摯に取り組んでいる姿は、短期間で大きな成果を得たことは素晴らしい。長く活動を続けて欲しい。と高く評され、七件の発表のうち第二位にランキングされました。また、会場の多くの参加者からも大きな共感を得ていました。

このコンクールには当協会の豊田会長と早矢仕副会長も参加し、その後に行われた意見交換会等も含め、北海道や他県の林業研究グループとの交流を深めました。

第四八回福島県林業祭で出展

十月二一日（土）、県林業研究センター（郡山市）において第四八回福島県林業祭が開催され、今年度も当福島県林研グループ連絡協議会は、森林・林業に関する啓発を目的に参加しました。



林業祭出展ブース
（イチヨウのまな板 販売中!）



林業祭の活動の様子
（来場者と木の名前の読み方クイズを楽しむ豊田会長）

豊田会長が所属する田人林業研究会の協力を得て、木工教室、木工品の展示・販売のブースを出展しました。

出展ブースの中では、森のクイズ、木の名前クイズを行い、参加した小学生に当連絡協議会名入れの福島県産ひのきで作った鉛筆（磐城高箸製 旧校鉛筆）をプレゼントしました。

また、同日午後からホテルバーデンにおいて福島県林業経営者協会が主催する「ふくしま林業経営セミナー」が開催され、当協議会から豊田会長、早矢仕副会長、蛭田顧問外二名が参加しました。

このセミナーでは、全国林業研究グループ連絡協議会会長である（有）高見林業代表取締役 齋藤正氏が講師として招かれ、「持続可能な林業経営の実践」と題して講演を行ったほか、齋藤正氏と福島県林業経営者協会会長中野光氏との対談・意見交換が行なわれました。

木の文化を育む⁵⁷

唯一無二のペン作り〜人々の想いをつなぐ〜

(イメージフォーム／ペンづくり工房・雪うさぎ)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

私たちは日々の暮らしの中で共に過ごした時間や想いに安心感と愛情を覚えます。そうした背景には歴史や文化、さまざまな物語があり、人々が愛着を持つ「想い」があります。とりわけ使用する人の心が豊かになる道具には実用性を越えた魅力があり、大切に受け継がれてきたモノには大きな価値が見出されます。

○木の可能性を活かして

ペンづくり工房・雪うさぎ(福島市)代表 佐々木 信幸さんは、一級建築士として四十数年のキャリアがあります。「家づくりネットワーク」にも所属し、「地域の木材を使った家づくり」を通して、森を育む地産地消の家づくりを実践してきました。建築物のみならず家具に至るまで、木の可能性を活かしたモノづくりに取り組んできた佐々木さんは、十五年ほど前から趣味で「木のペンづくり」を始めました。制作を重ねるその奥深さを知り、世界中の銘木や地

元福島産の木を使用したオリジナル

のペンを一本一本丁寧に作り上げています。天然の木を無塗装で仕上げているため、経年変化が楽しめる。厚さ2cmの板状に製材し、素材の含水率が一三%以下になるまで自然乾燥して加工するため、制作におよそ二年の年月を要します。

○想いをつなぐ

ペンづくりの依頼者は、さまざまな想いを胸にこだわりの木材を持って佐々木さんのアトリエを訪れます。地元の梅や柿、りんご等の果樹の木のほか、古い住まいを解体した際、記念に取っておいた梁材や大木にしていた御神木、形見の表札など、依頼される材もさまざまです。ペンづくりに適している材は広葉樹ですが、依頼される材の中にはペンづくりに適さない材もみられます。佐々木さんは依頼者の想いを汲み取り、想いを込めてペンづくりに励んでいます。

○唯一無二のペン

建築家の仕事は、単に「モノ」としての建築をつくるだけでなく、建て主と共に「想い」をカタチにしてゆきます。佐々木さんはペンづくりにおいても、依頼者の「想い」に寄り添いカタチにすることで唯一無二のペンを制作しています。「こだわりの木材の背景には物語があるので、依頼者の想いや笑顔が伝わってくる。その人を想いながらカタチにしてゆくのがとても楽しい。」と佐々木さん。

○まとめ

人が暮らしの中で過ごした時間や想いをカタチにした道具には、その土地の風土や誰かを想う優しさがあります。作り手と使い手が共に「想い」をカタチにし、未来に残してゆくことで、家や道具と一緒に物語も



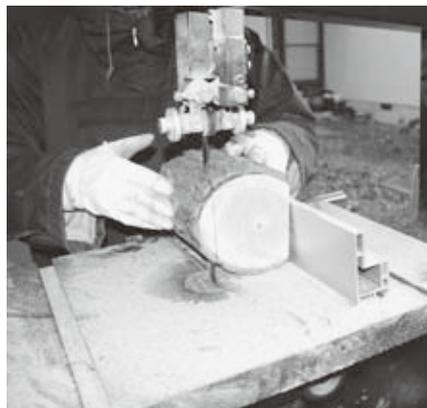
ペンに加工



完成品：天然木のため色味・模様・風合いがすべて異なる



自然乾燥



依頼を受けた木を製材

大切に受け継がれることを願います。

県森連いわき共販における木材市況（11月分）

令和5年12月1日
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

樹種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10~13	14.0	13.5	
		24上	15.1	14.5	
	3.65	16上			
		24上	14.1	13.1	
	3.00	9下	10.2	8.0	
		10~13	12.0	11.5	
		14~16	13.1	12.5	
		18~20	17.9	16.2	
	6.00	22上	17.9	16.3	
16~20					
2.00	16上	7.0	6.0		
ヒノキ	4.00	10~13			
		14~16			
		18~20			
		22上			
3.00	16~20	22.8	16.8		
アカマツ	4.80	18~22			
	4.00	18~22			
		24上			
	3.00	16~22			
		24上			

樹種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
カラマツ	4.00	12下			
		13~14			
		16上			
クリ	4.00	16上			
	3.00	16上			
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	12月の共販日
入荷量は少し回復しました。販売量は3,324㎡ (前年同月比118%)でした。 市況は、スギ3.00m、4.00m材が非常に活発 に取り引きされ、価格も急伸びました。小径材 も活発に取り引きされています。 今後もこの状況が続くと思われまますので、出 材よろしくお願ひ致します。	7日(木) 18日(月)

行 事 と お 知 ら せ	
12月18日(月) 納市	いわき木材流通センター
1月9日(火) 初市	いわき木材流通センター
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。	
<input type="text" value="福島県森林組合連合会 木材市況"/> <input type="button" value="検索"/>	

ここで、越代の桜について、簡単に説明すると、林野庁「森の巨人たち百選」に選ばれているヤマザクラの大木で樹高約二〇メートル、樹齢四〇〇年を超え県の天然記念物に指定されています。



従兄弟が一眼レフカメラを私に譲ってくれました。加えて彼は私を写真撮影につれだし、さらには写真のイロハを教えてくださいました。そんなある休日の朝早くに電話で起こされ、「今日は天気も良く古殿の越代の桜が満開で良いから撮りに行って来い」と言われ、渋谷古殿までいきました。でも現場に着き、見た桜は確かに雄大で、三春の滝桜に匹敵する桜だと感じました。

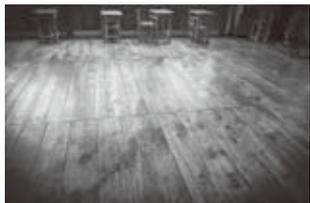
また、毎年新聞で紹介されている福島県の桜番付けでは、三春の滝桜に並ぶ横綱とされています。ここで、話を元に戻すと越代の桜に感動した私は、従兄弟から譲られたカメラで夢中になってシャッターをきりました。その時に撮った写真が掲載の写真です。三春の滝桜は有名すぎて、各地からの来客が多いのですが、越代の桜は大渋滞になることはありません。来年度の春には是非皆さんも、足を運んでみませんか。



越代の桜

福島県農林事務所 内田 守

表紙の写真



「木の温もり」

第20回ふくしま森林・林業写真コンクール
優秀賞
受賞者 涌井礼子さん(福島市)
撮影場所: 昭和村閉校噴丸小学校
コメント: 昔の木造りの小学校、とても懐かしかったです。

発行人

飯沼隆
陽光社印刷株式会社
(定価 一〇〇円)

発行

飯沼隆

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

はなしのひろば

緩急

朝晩の冷え込みと日中の小春日和の暖かさを一日の内に感じると、その緩急のおかげで、暖かみのありがたさをなお感じることが出来る。朝晩の冷え込みは、厳しい冬の寒さの予告だが、一方、冬の雨もいいものだ。全てを洗い流してくれる。落葉した裸木に直接降り注ぐ雨も、また木肌を伝い、次の季節に芽吹くための水分を蓄えていくようだ。そして、自分の心の内に、まだへばりついている今年の蟠りをも、洗い流してくれるようで、心が晴れる。曇もやんだので、散歩に出た。神社にある樹齢百年のイチヨウも一年の役目を終え、落葉して天をすつと仰ぐその美しい樹形に目を奪われる。枝にそのまま残された柿の橙色の集団が、寒々としたこの空気感に彩を添えている。散歩の終盤、お寺様の入り口に「生まれ変わるなら 生きているうちに」と毛筆で書かれた和紙が張り出されていた。「人生は一度きりだから」の後に続く歌詞のフレーズだが、思わず立ち止まり、そのフレーズを呪文のように唱えてみる。

季節にも景色にも緩急はあるが、暮らしの時間にも自分なりに緩急をつけると気持ちがかく違ってくる。仕事の合間に思い切り背伸びや深呼吸をしてみる、温かい飲み物で一息をつく、それも緩急のつけかただ。そして、その緩急のつけかたが、次の自分のいい時間に必ずつながっていく。今年も一日ずつ暮れていくが、それぞれの緩急が「新しい、いいハレの日」につながる。どうぞ心穏やかな年の瀬でありますように。

(都)

お知らせコーナー

第56回花いっぱいコンクール受賞者決定

花を愛する心と豊かな情操をはぐくみ“郷土を花と緑で飾ろう”の趣旨のもと、健康で明るい「福島県花いっぱい県民運動」の一環として実施された「第56回花いっぱいコンクール」の受賞者が決定され、令和5年11月27日(月)、福島民友新聞社において表彰式が行われました。

今回は、昨年に比べ参加件数が増え、学校や企業、団体など49団体の参加をいただきました。幅広い年齢層の方々が花の育成活動に取り組み、県内の各地域を彩っていることに心より感謝申し上げます。

なお、受賞された団体は、次のとおりです。

受賞団体

福島県知事賞	喜多方市立上三宮小学校
福島県教育委員会教育長賞	桑折町立醸芳小学校
福島県森林・林業・緑化協会会長賞	青柳地区花いっぱい運動(南会津町)
福島民友新聞社長賞	郡山市立白岩小学校
農林中央金庫福島支店長賞	会津昭和村ファンクラブ
奨励賞	喜多方市立第一小学校 喜多方市立熊倉小学校 南相馬市立原町第二小学校 新地町立駒ヶ嶺小学校 棚倉町立棚倉中学校 学校法人西郷学園(西郷村) 喜多方市立加納小学校



県知事賞表彰(上三宮小)



花壇の手入れ(県知事賞・上三宮小)

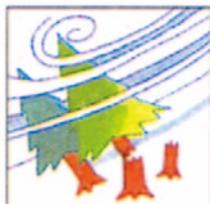
備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



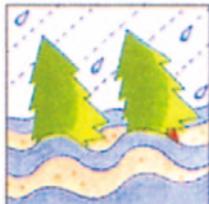
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



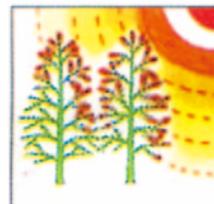
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



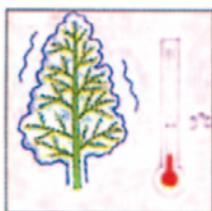
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカット解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支 店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



SR3100

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



破碎径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1